露地栽培カラーにおけるアザミウマ類の防虫ネットによる防除
～害虫防除は発生しにくい環境づくりから～

1. はじめに

カラーは、「乙女の清らかさ」「素敵な美しさ」という花言葉を持ち、ブライダルブーケとして高い人気があります。本県の露地栽培カラーは、結婚式での需要が高くなる５～６月にちょうど開花期を迎える作型です。また、県外主要産地の端境期とも重なり、収益性も高いことから、近年、栽培に取り組む生産者が増えています。

ところが、露地栽培のカラーでは、アザミウマという微小害虫による品質の低下が大きな問題となっています。

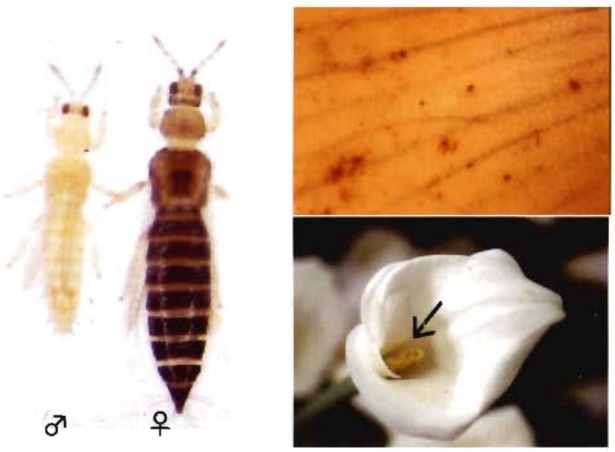

図1 ヒラズハナアザミウマ成虫とその被害
（左）ヒラズハナアザミウマ雌雄成虫
（右上）花苞の褐色斑点
（右下）花穂への寄生（矢印）

2. アザミウマ類の被害と防除の現状

被害をもたらすのは、ヒラズハナアザミウマという種類で花に多くみられます。雄成虫は黄色、ひとまわり大きい雌成虫は暗褐色で、体長は 1.5mm 前後です（図１左）。アザミウマ類は花粉を食べ、花弁に卵を産み込みますが、カラーでは、この産卵痕が白色の花苞（花弁に見える部位）に褐色斑点として残り、商品価値が下がります。また、花の中に虫が存在すること自体が不快感を与え、出荷できなくなります（図１右）。

生産現場では、開花期に殺虫剤散布が行われていますが、アザミウマ類は蕾にも寄生し、花に潜む虫に直接薬剤がかかりにくいこと、また連続的にカラー圃場へ飛来することから、十分な防除効果が得られていません。そこで、他の作物でアザミウマ類の侵入阻止効果があると報告されている「防虫ネット障壁」の利用について検討しました。

3. 防虫ネット障壁の設置条件

カラー圃場では、ヒラズハナアザミウマ成虫の 90% 以上が 2m 以下を飛翔し、特に 60 ～ 100cm、つまり、カラーの開花位置付近に集中していました（図 2）。また、アザミウマ類の侵入を完全に防ぐためには、0.2mm 以下の目合いのネットが必要になりますが、通気性や障壁にした場合の強度を考慮すると、実用的には 0.6mm 目合いのネットが適当だと考えられました（図 3）。

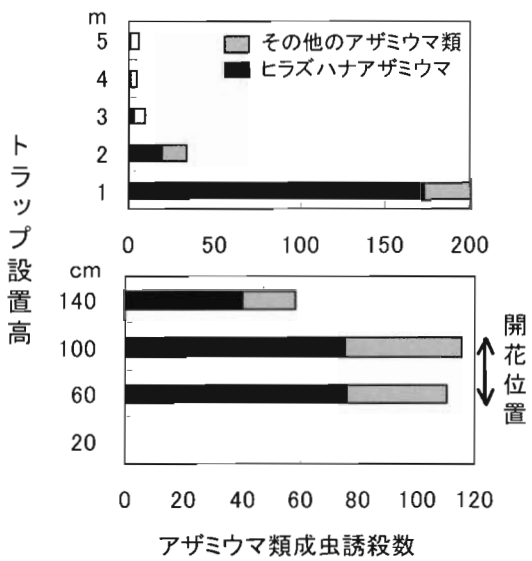

図2 カラー圃場における青色粘着トラップによるアザミウマ類成虫の高さ別誘殺数（2002年）
トラップ設置期間：6/5-18

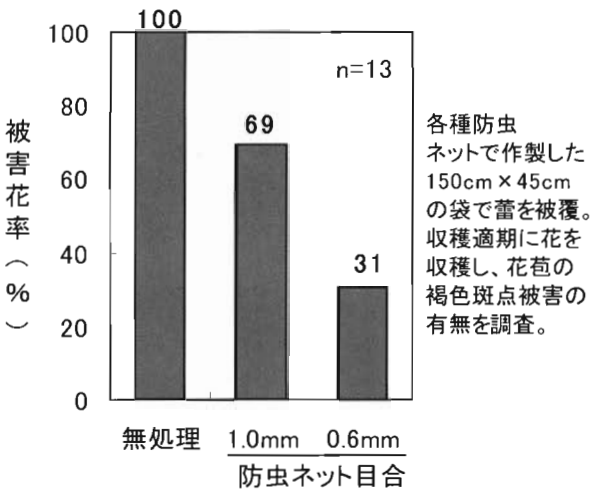

図3 各種防虫ネット被覆処理が褐色斑点被害発生に及ぼす影響（2002年）

4. 防虫ネット障壁の防除効果

これらの結果をもとに、高さ 2m、0.6mm 目合いの防虫ネット障壁をハウスの骨組みを利用してカラー圃場に設置しました。また、設置後に障壁内の除草と殺虫剤散布を行い、発生源を取り除きました。その結果、防虫ネット障壁は、5 月下旬以降に急激に増えるアザミウマ類成虫の飛来を阻止し、被害を軽減する効果が高いことが分かりました（図 4）。なお、実用的には防虫ネットをハウス全面に被覆するのでも良いと考えられます。

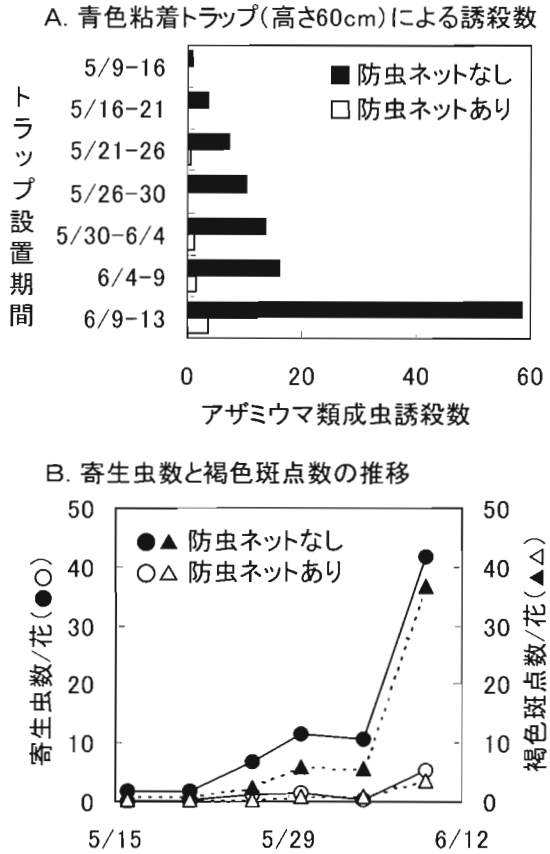

図4 防虫ネット障壁（高さ2m、0.6mm目合い）がカラーのアザミウマ類成虫の誘殺数および被害発生に及ぼす影響（2003年）

5. おわりに

露地栽培のカラーは、これまでアザミウマ類に対してかなり無防備な状態でした。農薬の効果を高め、散布回数を減らすためにも、これからは今回紹介した物理的防除法や除草などの耕種的防除法を取り入れて、まずはアザミウマ類が発生しにくい環境をつくることが大切です。このことは、他の害虫管理にも当てはまります。

今回の試験では、防虫ネット障壁の利用によって、商品化率が向上しただけでなく、花茎長など品質の向上も認められました。本防除法が、露地栽培カラーのメリットを十分に生かした、品質の高い切花生産の拡大につながり、「富山のカラー」というブランド育成の一助になればと考えています。

（病理昆虫課　青木　由美）